

大学の世界展開力強化事業
「アジア高等教育共同体形成促進」

～CAMPUS-Asia6～

海外派遣学生募集説明会

2022年6月15日（水）

10：00-12：00





CAMPUS-Asia6 ～説明会目次～

1. CAMPUS-Asia6 について（浜田教授）
2. 募集要項について（コーディネーター）

～質疑応答～

*説明会終了後にも質問を受け付けます。

3. 交流プログラムについて

- 交流プログラム A について（教育：清水教授）
- 交流プログラム B について（環境：辻村教授）
- 交流プログラム C について（物質：山本教授）

～終了～

*アンケートへのご協力をお願いします。

●プロジェクトメンバー●

教育：浜田教授、清水教授、藤田教授

環境：辻村教授、鈴木教授

物質：山本教授

プロジェクトコーディネーター：宮本、福田

CAMPUS-Asia6

筑波大学



グローバルな課題解決に貢献する 教育政策マネジメントのプロフェッショナル育成プログラム



グローバルな課題
って何？

貧困や差別、ジェンダー、
環境、水・エネルギーの問題など
国境を超えて解決することが
必要な問題のことだよ！

いろんな
専門分野の人たちが
一緒に考える
必要がある問題だね！

そのためには私たちが
当事者目線で教育政策を
変えていかなきゃ！
まずは、アジアから
やってみよう！

このプログラムで挑戦できること

01

異文化理解・広い視野・深い洞察力をもって教育制度・政策、カリキュラム改革の方向性について考えられる。

02

自身の研究分野を活かして、グローバルな課題の構造を分析し、フィールドに出て、国際的に活躍できる。

03

グローバルな課題の解決に向けて、多様な人々と協働して、教育政策を立案できるようになる。



CAMPUS-Asia6 の3つのステージ

本プログラムは大学院博士前期・後期課程学生を対象とし、
 どちらの在籍学生も履修できる **Certificate Program** として開始します。

※途中、数ヶ月間の協定校におけるフィールド調査を含みます。ただし、新型コロナウイルス感染拡大の状況によって変更になる場合もございます。

共通科目 第1ステージ 共通科目(2科目、計2単位)

第1ステージでは、必修科目を履修します。

必修科目

「社会の課題と教育政策」

Keyword

教育政策デザイン、シティズンシップ教育、
 社会的排除、科学的リテラシー、生涯学習

必修科目

「地球規模課題の実態」

Keyword

SDGs、人権、ジェンダー平等、インクルージョン、
 国際教育協力、地球環境、物質マテリアル

選択科目 第2ステージ 選択科目(3単位以上)、課題解決特別演習(3単位)

第2ステージでは、学生が希望の専門分野を、以下の3つのプログラムから選択することになります。その上で、プログラムごとに開設されている「選択科目」から、最低3単位を履修します。プログラムごとの協定校で開設されている科目を履修して、単位認定を受けることもできます。



選択科目

交流プログラム A

▼詳細

教育学



選択科目

交流プログラム B

▼詳細

環境科学



選択科目

交流プログラム C

▼詳細

国際マテリアルズ
 イノベーション



共通科目 第3ステージ 課題解決提案特別演習(1単位)

第3ステージの「課題解決提案特別演習」では、プログラムの集大成として国際学生カンファレンスに参加し、地球規模課題に取り組む、教育政策について提案をします。



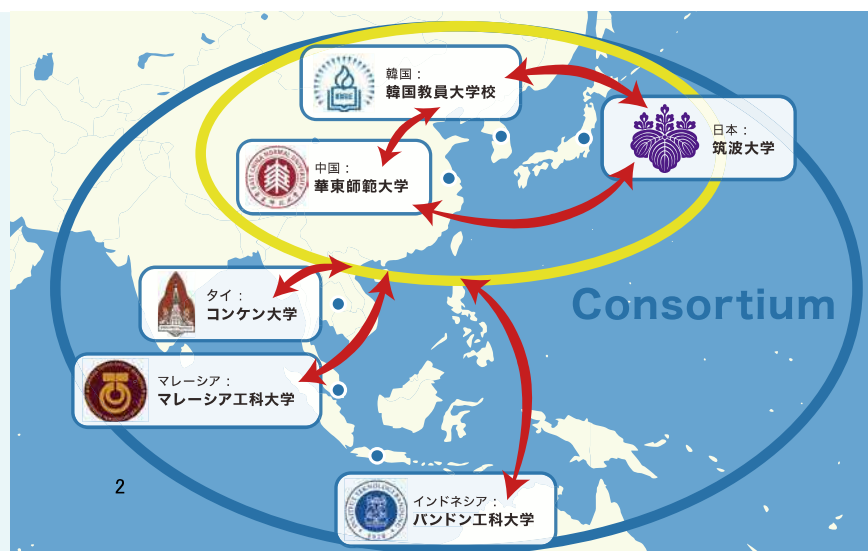
合計9単位の修得で、プログラムを修了すると「修了証(Certificate)」を授与されます。

協定校

交流プログラム A
教育学
 中国：華東師範大学
 韓国：韓国教員大学校
 タイ：コンケン大学

交流プログラム B
環境科学
 中国：華東師範大学
 韓国：韓国教員大学校
 マレーシア：マレーシア工科大学

交流プログラム C
物質・材料科学
 中国：華東師範大学
 韓国：韓国教員大学校
 インドネシア：バンドン工科大学



●交流内容●



●第2ステージ：各交流プログラムの内容

■共通事項

第2ステージにおいて、学生は3つの交流プログラムから1つを選択する。A、B、Cのプログラムに関わらず、学生は筑波大学で開講する「選択科目群」から最低3単位以上履修する。あわせて、派遣先のパートナー校においてフィールドワークを行うことを含む「課題解決特別演習」（3単位）を履修するものとする。筑波大学の学生は日本以外の3カ国すべてに実渡航することを基本とする。華東師範大学、韓国教員大学校、コンケン大学、マレーシア工科大学、バンドン工科大学の学生の場合は、日本へは実渡航することとし、日本以外の国同士の相互交流は可能な範囲で実渡航を実施する。ただし、当該国同士の相互調整によりオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型での履修も可とする。

なお、コロナ禍の制限により実渡航によるフィールドワークができない場合には、民間業者と協力して作成したバーチャルフィールドワークのコンテンツを使用し、パートナー校のメンター教員、参加学生と一緒にバーチャルなフィールドワークを実施する。

■交流プログラムA（教育学コア）■

1. 交流プログラムAは教育学をコアとする内容である。学生は「フィールドワーク研究」、「教育学演習」、「教育学研究法」等の科目の中から3単位以上を選択して履修する。それらの履修を通じて教育学の専門的教養を深めるとともに、教育学における質的研究の方法（インタビュー、参与観察等）と英語による研究成果発表の技法などを習得する。この選択科目の履修にあたっては、メンター教員による指導助言を受ける。
2. 「課題解決特別演習」の履修では、華東師範大学、韓国教員大学校、コンケン大学の3大学を訪問する。メンター教員の指導助言を受けて、具体的な訪問スケジュールを確定する。
3. 各派遣先のパートナー校では、学生自身が設定した地球規模課題に焦点づけて、当該国または地域でのフィールドワーク（インタビュー、観察を含む実地調査）を実施し、諸課題の要因を社会科学のおよび自然科学的な観点から広い視野で捉えるとともに、それらの多様性・複雑性に対する理解を深める。フィールドワークの具体はパートナー校のメンター教員の指導助言に基づいて検討する。コロナ禍における渡航制限や現地での行動制限等がある場合は、パートナー校と綿密に情報共有をはかった上で渡航先の順序、渡航先でのフィールドワーク内容と滞在期間を確定させる。
*コロナ禍の制限によりフィールドワークの実施ができない場合には、民間業者と協力して作成したバーチャルフィールドワークのコンテンツを使用し、パートナー校のメンター教員、参加学生と一緒にバーチャルなフィールドワークを実施する。
4. フィールドワークによって得られた情報に基づいて、自分自身が設定した地球規模課題の要因を考察し、各自がレポートにまとめる。このレポートは華東師範大学、韓国教員大学校、コンケン大学の各パートナー校において作成する。
5. 学生は、帰国後、このレポートを提出する。

■交流プログラムB（環境学コア）■

1. 交流プログラムBは、環境学をコアとする内容である。学生は、「Master Project」、「持続性マネジメント政策」、「合同セミナー」等の中から3単位以上を選択して履修する。それらの履修を通じて水資源、水環境、生態系等の環境学に関する専門的教養を深めるとともに、環境学の研究方法（フィールド調査・観測、一次データ収集・解析など）と英語による研究成果発表の技法などを習得する。この選択科目の履修にあたっては、メンター教員による指導助言を受ける
2. 「課題解決特別演習」の履修では、華東師範大学、韓国教員大学校、マレーシア工科大学の3大学を訪問する。メンター教員の指導助言を受けて、具体的な訪問スケジュールを確定する。
3. 各派遣先の大学では、学生自身が設定した地球規模課題に焦点づけて当該国または地域でのフィールドワーク（観測、一次データの収集・解析含む実地調査）を実施し、地球規模課題を生み出す要因の複雑性を理解し、環境科学等の専門的かつ俯瞰的な洞察力を深める。フィールドワークの具体はパートナー校のメンター教員の指導助言に基づいて検討する。コロナ禍における渡航制限や現地での行動制限等がある場合は、パートナー校と綿密に情報共有をはかった上で渡航先の順序、渡航先でのフィールドワーク内容と滞在期間を確定させる。
- * コロナ禍の制限によりフィールドワークの実施ができない場合には、民間業者と協力して作成したバーチャルフィールドワークのコンテンツを使用し、パートナー校のメンター教員、参加学生と一緒にバーチャルなフィールドワークを実施する。
4. フィールドワークによって得られた情報に基づいて、自分自身が設定した地球規模課題の要因を考察し、各自がレポートにまとめる。このレポートは華東師範大学、韓国教員大学校、マレーシア工科大学の各パートナー校において作成する。
5. マレーシア工科大学では合同セミナーにおいて、レポートの発表を行い、学生、教員らと討論、検討する。その上で、課題解決に向けた方策、具体的な取組、取組を持続可能にするためのアイデアを提案する。
6. 学生は、帰国後、このレポートを提出する。

■交流プログラムC（物質・材料科学コア）■

1. 交流プログラムCは、物質・材料科学をコアとする内容である。学生は「Special Research」「Joint Seminar」「Open Seminar」等の科目の中から3単位以上を選択して履修する。それらの履修を通じて各自が進めようとするマテリアル研究が様々な地球規模課題の解決にどのような繋がりをもっているかについて理解を深めるとともに、マテリアルの実験的および理論的研究を遂行するための素養と英語による研究成果発表の技法などを習得する。「Open Seminar」には、協働大学院コンソーシアムのつくば地区研究機関の研究者や企業の研究者も参加し、基礎科学および社会のニーズの観点から有益なコメントを得る。
2. 「課題解決特別演習」の履修では、華東師範大学、韓国教員大学校、バンドン工科大学の3大学を訪問する。メンター教員の指導助言を受けて、具体的な訪問スケジュールを確定する。学生が希望する課題に見合う研究室を選択できるように、メンター教員の研究分野に派遣先パートナー校の研究室に関する詳細な情報を提供する。
3. 各派遣先の大学では、学生自身が設定した地球規模課題に焦点づけて当該国または地域で地球規模課題についてのフィールドワーク（インタビュー、観察等を含む実地調査）を実施し、それらとマテリアル研究の連関を検討する。その過程で新たな研究課題を見出し、マテリアルのイノベーションを導くための新たな視点を得る。フィールドワークの具体はパートナー校のメンター教員の指導助言に基づいて検討する。コロナ禍における渡航制限や現地での行動制限等がある場合は、パートナー校と綿密に情報共有をはかった上で渡航先の順序、渡航先でのフィールドワーク内容と滞在期間を確定させる。
- * コロナ禍の制限によりフィールドワークの実施ができない場合には、民間業者と協力して作成したバーチャルフィールドワークのコンテンツを使用し、パートナー校のメンター教員、参加学生と一緒にバーチャルなフィールドワークを実施する。
4. フィールドワークによって得られた情報に基づいて、自分自身が設定した地球規模課題の要因を考察し、各自がレポートにまとめる。このレポートは華東師範大学、韓国教員大学校、バンドン工科大学の各パートナー校において作成する。
5. 学生は、帰国後、このレポートを提出する。

※ 以上の3つの交流プログラムのいずれにおいても、学生は、渡航中、派遣先および派遣元のメンター教員に対して電子メール等で定期的に進捗状況を報告し、メンター教員はパートナー校の教員と相互に情報共有と連絡調整を行いながら適切な指導助言する。必要に応じて双方の学生・教員によるオンライン研究会を開催して研究の進捗状況についてディスカッションを行う。

●第3ステージ：交流プログラムA、B、C共通

1. 第3ステージは、「課題解決提案特別演習」（1単位）として、ハイブリッド型オンラインによる国際学生カンファレンスを開催し、プログラム履修学生とメンター教員はそれぞれの在籍校からそれに参加する。これは、地球規模課題に対する各専門分野でのアプローチと研究成果を、専門分野の垣根を越えて学び合う機会とする。
2. 学生は、第2ステージの最後に作成したレポートの内容を整理してオンライン国際学生カンファレンスで発表する（発表者の数やテーマに応じて分科会を構成する）。
3. カンファレンスでは、発表されたレポートの内容に基づいてアジア地域における地球規模課題の要因を多面的に理解するとともに、学問融合的な協働を通じて地球規模課題の解決に資する教育政策を検討する上で重要となる諸要素を検討する。その解決に資する教育政策のアイデアを出し合い協働討議をおこなう。
4. カンファレンスの成果に基づいて、学生は各自が設定した地球規模課題の解決に資する教育政策の提案を含む最終レポートを提出する。

(ii) オンライン交流

本プログラムは基本的に4カ国の学生・教員の参加と協働のもとで進めていくため、実渡航の場合であってもオンラインによる交流は重要な要素をなすものである。とくに、前掲(i)にあるように、学生が派遣されている間も適宜、双方のメンター教員がオンラインで指導助言を行い、必要に応じてオンライン研究会でのディスカッション等も行う。

(iii) 実渡航とオンラインを組み合わせたハイブリッド型の交流

第3ステージの「課題解決提案特別演習」はハイブリッド型オンラインの国際学生カンファレンスとする。派遣を終了して帰国した学生はそれぞれの在籍校が用意した会場に集合して各パートナー校の間をオンラインで繋ぎ、カンファレンスを行う。ここでは、地球規模課題の解決という、国境を越えた共通の課題をめぐって協働討議を行うことが重要である。

大学の世界展開力強化事業「アジア高等教育共同体形成促進」(Campus Asia 6)

2022年度 交換留学プログラム生 募集要項

1. 趣旨 (派遣の目的)

「Campus Asia 6」は、地球規模課題の解決に向けた教育政策マネジメントの専門人材育成を目的に交流プログラムを設定し、日中韓及びASEAN（インドネシア・タイ・マレーシア）の連携大学との海外交換留学を実施する。

●交流プログラムA (教育学コア)

派遣先：華東師範大学（中国）、韓国教員大学校（韓国）、コンケン大学（タイ）

●交流プログラムB (環境学コア)

派遣先：華東師範大学（中国）、韓国教員大学校（韓国）、マレーシア工科大学（マレーシア）

※国際連携持続環境科学専攻の学生が対象。

※以下プログラム派遣期間から変動する可能性があります。

派遣期間については問い合わせ先までお願いします。

●交流プログラムC (物質・材料科学コア)

派遣先：華東師範大学（中国）、韓国教員大学校（韓国）、バンドン工科大学（インドネシア）

2. 募集情報

留学先	プログラム派遣期間	募集人数	募集対象
華東師範大学（中国） 韓国教員大学校（韓国） コンケン大学（タイ） バンドン工科大学 （インドネシア） マレーシア工科大学 （マレーシア）	2022年10月～3ヶ月にわたって3大学へ渡航	若干名	正規課程に在学中の大学院生

3. 応募資格及び条件

- (1) 日本国籍を有する者又は日本への永住が許可されている者（特別永住者を含む）
- (2) 留学に必要な査証を確実に取得し得る者
- (3) 本プログラムの趣旨を理解し、留学先の授業を英語で履修し、参加者同士でディスカッションする意欲のある者

- (4) 本プログラムに基づく単位を留学先で取得し、本学において単位互換を予定する者
- (5) 本プログラムの目的や活動内容を十分理解し、それに沿った活動ができ、本プログラムでの学びを今後の研究活動や課題解決に積極的に還元する意欲をもった者
- (6) 本プログラムで受け入れる留学生の生活支援に協力できる者。
- (7) 渡航・滞在中の事件や事故、災害、感染症に備えて下記の4つすべてを満たすことができる

- ① 海外渡航システム (TRIP) を使用し留学の日程表を作成。(日程表は留学願の添付資料となる。) ※ TRIP の入力データは、「海外渡航届」、「たびレジ」のデータに統合されています。
- ② 海外旅行保険 (留学に対応しているもの) および「海外安全危機管理システム (OSSMA)」への加入 (費用は自己負担) [詳細はこちらからhttps://www.bgi.sec.tsukuba.ac.jp/safety/](https://www.bgi.sec.tsukuba.ac.jp/safety/)
- ③ 当プログラムで推奨している海外渡航のためのワクチン接種 (費用は自己負担)
- ④ 大学で実施される「危機管理セミナー」への参加 (6月23日開催)

※詳細については13ページを参照

- (9) 親族等及び指導教員の承認を得た上で、誓約書の提出ができる者
- (10) 感染症危険情報レベル2・3の国へ渡航する際には、「学生の渡航に関する特別措置に係る申合せ」に基づき、プログラム開始前までに所属教育組織長の許可を得ていること (本事業での渡航は留学になるため、「留学願」の提出が必要です。)

4. 応募方法

Campus Asia 6 の HP から様式のダウンロードが可能です。

<https://campusasia6.education.tsukuba.ac.jp/>

必要事項を記入のうえ、締切日までに運営事務局へ提出するようにしてください。

事務局受付 月～金 8:30-17:15 (12:15-13:15を除く)

※火、木については不在にしている場合がありますので、事前に電話をいただくと確実です

- ・応募締切: 2022年6月24日(月) 17:00までに紙媒体で事務局へ持参、または提出先の住所まで書留にて郵送ください。

提出書類

- ①申請書・誓約書 (両面1枚)
- ②成績証明書 (2021年度1年間の成績が評価されたもの)
※締切日までに間に合わない場合はご相談ください。
- ③新型コロナワクチン接種証明書の写し、また書類提出時にアプリ版の証明書を提示

・提出先 筑波大学天王台 1-1-1 人間系学系棟 B522 Campus Asia 6 運営事務局



5. 選考

2022年7月第1週ごろまでに提出書類に基づいて選考を行い、必要に応じて面談を行う場合があります。

6. 結果通知

選考後速やかに大学が提供する e メールアドレス宛に合否をお知らせいたします。

7. 費用

(1) 授業料

留学先大学の授業料は不徴収（筑波大学への授業料の納付は必要です。）

(2) 奨学金

本プログラム参加学生対象の JASSO 奨学金制度により、月額7万円を給付予定。

※成績評価係数の申請基準を満たす者（JASSO 算出方法：成績評価係数 2.30 以上）のみ対象となります。（筑波大学の GPA ではありません。）

詳細は、「成績評価係数の算出方法」を参照してください。

※「はばたけ！筑大生」や「トビタテ！留学 JAPAN」の奨学金との併給はできません。重複して申請する場合は、いずれかを辞退する等必要な手続きを取ってください。

JASSO 受給の資格要件については、11 ページの「JASSO 受給におけるチェックリス

ト」をご確認ください。

(3) 自己負担となる費用（予定）

航空券代・各種予防接種・海外旅行保険・OSSMA・空港までの往復交通費・滞在費（宿泊費、食費、現地交通費等）・雑費・パスポート、査証、ビザ各申請料及び申請にかかる手数料、海外における個人通信費等

* 「応募資格及び条件」の項を満たさないことが判明した場合、プログラム生の身分は取り消され、これまでに発生した費用はすべて学生の負担となります。

推奨する予防接種

下表記載の接種を推奨する予防接種については、必ず医療機関等に相談のうえ、抗体ができる日程を考慮して接種するようお願いいたします。

予防接種の種類によっては、数回（2～3回）接種する必要のあるものもあります。

なるべく早く（できるだけ出発3ヶ月以上前から）、医療機関や検疫所で、接種するワクチンの種類と接種日程の相談をしてください。

国・地域別感染症情報については、厚生労働省検疫所（FORTH）のHPを参考にしてください。

<http://www.forth.go.jp/index.html>

なお、予防接種にかかる費用は自己負担です。

派遣先国名	接種を推奨する予防接種	特に気を付けたい病気
中国、韓国、タイ、マレーシア、インドネシア	（各国共通）A型肝炎、B型肝炎、破傷風、日本脳炎 （中国・タイ・インドネシア） 狂犬病 （インドネシア）麻しん	赤痢、腸チフス、狂犬病、鳥インフルエンザ、デング熱、チクングニア熱、マラリア、コレラ、麻しん、腸炎ビブリオ

〔問い合わせ先〕

筑波大学 Campus Asia 6 運営事務局

住所：筑波大学天王台 1-1-1 人間系学系棟 B522 Campus Asia 6
運営事務局

電話：029-853-6607

e-mail：info.campus-asia6@un.tsukuba.ac.jp

2022年度 世界展開力強化事業（Campus Asia 6）

学生派遣プログラム申請書

所属

学籍番号

氏名

①希望するプログラム（○で囲んでください）

・交流プログラム A（教育学）・交流プログラム B（環境学）・交流プログラム C（物質・材料科学）

②本プログラムでの留学を希望する理由

②研究分野と本プログラムとの関わり、また今後どう関わっていくのか

③ 指導教員の推薦文

誓約書

私は、募集要項の趣旨に記載された内容を理解し、下記項目すべての実行を確約しますので、書類を揃え、2022年度学生派遣プログラムに応募します。

下記の項目をチェックしてください。

- プログラム参加に関わるオリエンテーションにすべて参加する
- 危機管理セミナーに必ず参加する
- 予定されているすべてのプログラムに参加する
- 留学中は、本学および海外連携大学の指導者（メンター）の指示に従い、研修目的に沿った行動をとる
- 留学後、速やかにアンケートを提出する
- パスポート、ビザ等の手配ができる
- 感染症危険情報レベル2・3の国へ渡航する際には、「学生の渡航に関する特別措置に係る申合せ」に基づき、所属教育組織長の許可を得ていること（本事業での渡航は留学になるため、「留学願」の提出が必要です。）
- 両親等及び指導教員（クラス担任）の承諾を得ている
- 在籍中の本学における履修計画に問題ないことを確認できている
- 健康に特段の不安はない
- 今後、プログラム受入留学生の支援に必ず協力する
- 海外保険および OSSMA への加入は自己負担で行う
- パスポートの有効期限が入国時より6か月以上である（残存有効期間が1年未満の場合は、早めの更新を推奨）

連絡先：メールアドレス（sメール）

電話番号（日中連絡のつく番号）

申請者氏名（署名）：

申請者が当プログラムへ参加することを了解のうえ推薦いたします。

指導教員等氏名（署名）：

JASSO 受給におけるチェックリスト

学籍番号：

氏名

本プログラム参加学生対象の JASSO 奨学金を受給する場合は、
下記 JASSO 候補者の資格要件を満たしているか確認してください。

- 日本国籍を有する者又は日本への永住が許可されている
 - ※ 日本への永住が許可されていない「日本人の配偶者等」「永住者の配偶者等」「定住者」は対象となりません。
 - ※ 多国籍者においても上記を満たす者は対象となります。
- 派遣プログラム参加にあたり、必要な査証を確実に取得できる
- 経済的理由により、自費のみでの派遣プログラムへの参加が困難である
- 派遣プログラム終了後、大学に戻り学業を継続し、大学の学位を取得する、又は卒業する
 - ※退学・除籍の予定がある者は、要件を満たしません。
 - ※プログラム途中で正規の課程を卒業・修了する者は、要件を満たしません。プログラム途中で学部課程を卒業し、引き続き大学院に入学する者も要件を満たしません。
- 大学における選考時の前年度の成績評価係数が 2.30 以上（3.00 満点）である。
- JASSO 以外に奨学金に申し込んでいる、または申し込む予定がある

該当する場合は、奨学金の名前を記入

- JASSO 奨学金以外の、派遣プログラム参加のための奨学金等（渡航に係る費用及び返済が必要な貸与型奨学金や学資ローンは含まれない）を受ける場合、当該奨学金等の支給月額（複数の団体等から受ける場合は合計金額の月額換算額）が、本制度による奨学金月額 7 万円を超えない。

＜成績評価係数の算出方法＞

- ・留学開始年の前年に履修申請した授業科目の成績により算出
(1年次生の場合、初年度の春学期の成績証明書により算出。)
- ・筑波大学のGPA算出方法とは異なります。必ず次表を参考に「成績評価ポイント」に換算し、計算式に当てはめて算出してください。

成績評価	A+	A	B	C	D
成績評価ポイント	3	3	2	1	0

(計算式) ・前年度に履修申請した授業科目のみ

(「成績評価 A+とAの単位数」×3) + (「成績評価 Bの単位数」×2) + (「成績評価 Cの単位数」×1) + (「成績評価 Dの単位数」×0) ÷ (履修科目の単位数合計) = 「成績評価係数」

$$\frac{(\text{成績評価 A+とAの単位数}) \times 3 + (\text{成績評価 Bの単位数}) \times 2 + (\text{成績評価 Cの単位数}) \times 1 + (\text{成績評価 Dの単位数}) \times 0}{\text{該当年度の単位数合計}}$$

(例)

科目名	単位数	評価	ポイント
〇〇学	2.0	A+	3
〇〇実習	3.0	A	3
〇〇概論	1.5	B	2
〇〇演習	0.5	C	1
〇〇論	1.0	D	0

A+、Aの科目：単位数 (2.0+3.0) ×3 ポイント=15.0 点

Bの科目：単位数 (1.5) ×2 ポイント=3.0 点

Cの科目：単位数 (0.5) ×1 ポイント=0.5 点

Dの科目：単位数 (1.0) ×0 ポイント=0 点

計 18.5 点、8.0 単位

18.5 ÷ 8.0 = 2.312 → 小数点第3位を四捨五入 → **成績評価係数 2.3**

関係組織の長 殿
(送付先のとおり)

国際局グローバル・コモنز長

BENTON Caroline F.

令和4年度夏季休業前の海外危機管理セミナーの開催について（通知）

昨今、海外で頻発している災害やテロ、感染症発生などの危機によるリスクの未然防止・回避のために、海外での危機管理に関する渡航者※それぞれの意識の向上が求められています。

このような状況に鑑み、この度、下記のとおり海外危機管理セミナーを開催しますので、お知らせいたします。

本セミナーでは、医学医療系の教員（附属病院 感染症科医師）による「海外に行く際の、気軽にできる感染症予防」についての講演のほか、危機管理の専門家の日本エマージェンシーアシスタンスや、国際局グローバル・コモنزの教員による講演を予定していますので、貴下の学生・教職員にご出席いただけますよう、周知方、よろしくお願いいたします。

なお、主として留学等で海外へ渡航を予定している学生を対象とした内容ではありますが、教職員の参加も歓迎します。また、やむを得ず出席できない方のために、後日、学習管理システム manaba での配信も予定しておりますので、貴組織下の学生・教職員へ広く周知願います。

※本学では常時より、学生の海外渡航について、外務省が発出する危険情報または感染症危険情報がレベル2以上の国・地域においては、原則取り止めるよう定めています。ただし、教育上及び安全上の観点からの基準に照らして、教育組織長が海外渡航を可能と判断した場合、特別措置として許可されることがあります。

なお教職員は、危険情報及び感染症危険情報がレベル2以下の地域へ用務による渡航が可能です。

(参考) 筑波大学基幹サイト「海外での危機発生時における学生及び教職員の渡航に関する指針について

<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/go-abroad-stay/safety/>

記

1. 日時： 令和4年6月23日（木）18：15～19：30

2. 内容・講師：

①「安全対策として渡航前準備事項を確認し、海外渡航中の安全管理を考える」

講師：齋藤 進 氏 （日本エマージェンシーアシスタンス）

②「海外に行く際の、気軽にできる感染症予防」

講師：医学医療系 鈴木 広道 教授

（筑波大学附属病院 感染症科 診療科長）

③「海外渡航にむけた準備とその心得」

（渡航に関する指針（学長決定）、海外渡航システム（TRIP）への登録、危機管理サービス・海外旅行保険・留学保険への加入、その他の注意事項等を含む）

講師：スチューデントサポートセンター 国際交流支援室 /国際局グローバル・コモنز

鈴木 伸隆 准教授

3. 会場： オンライン (Zoom)
4. 参加対象者： 本学の学生・教職員
5. 使用言語： 日本語
6. 申込方法： 令和4年6月21日(火)までに、以下の申込リンクより、事前登録してください。
<https://forms.office.com/r/3N7rPU69n5>

本件担当： 国際局グローバル・コモンズ 木野内、山本
Tel： 029-853-7401
E-Mail： [gc-assistance\(#\)un.tsukuba.ac.jp](mailto:gc-assistance(#)un.tsukuba.ac.jp)
※メールアドレスは、(＃)を@に変換して送信してください。

(送付先)

各学群長
各学術院長・研究群長
グローバル教育院長
各系長
全国共同教育研究施設の長
学内共同教育研究施設の長
部局附属教育研究施設の長
高細精医療イノベーション研究コア長
附属図書館長
附属病院長
附属学校教育局教育長
各附属学校長
理療科教員養成施設長
各局長、各部長、各室長
各支援室長



OSSMA

- Overseas Students Safety Management Assistance -

OSSMAは、留学中の皆さんや保護者様と大学の間立ち、困りごとご相談が発生した場合に24時間365日日本語で適切なサポートを提供します。

海外でトラブルに巻き込まれたら・・・OSSMAヘルプデスクにまずはご連絡を！



これから渡航する都市で爆破テロが発生しているとのニュースがあるが、現地の今の状況について、教えて欲しい。



鳥インフルが発生している。この地域でタミフルが入手できる医療機関を教えて欲しい。

航空機内に重要書類を置いてきてしまった。先を急ぐので代わりに航空会社に状況を確認してもらえないか？

留学生危機管理サービス『OSSMA』は事前会費制の留学生危機管理支援サービスであり、保険ではありません。入院、治療、検査、カウンセリングなどの医療費などは会員様ご負担となります。そのため、**本サービス加入と合わせ、必ず海外旅行保険への加入が必要です。**

また、海外旅行保険では提供されないアシスタンスもご提供します。さらに、海外旅行保険のアシスタンスが受けられないケースの医療アシスタンスも対応いたします。特に、現地でクーデターに巻き込まれたり、けんかに巻き込まれたりしてのケガ、持病を原因とする病気の場合も対応いたします。OSSMAでご案内する治療、サービス等でも海外旅行保険で補償対象とならないものは、追加の個人負担が発生します。その場合は、その旨を事前にご案内いたします。

◆サービスが受けられない場合:ゼネスト、交通スト、天災、戦争、内乱、テロ、暴動、反乱、報復、交通・輸送制限、爆発、原子力事故などの不可抗力により危機管理支援の実施が遅れ、行使できない場合があります。

■OSSMA会員カードについて

◆OSSMA LOCATORログイン後、HelpボタンよりPDF版サービスガイドP. 31の会員カードを切り取り、OSSMA会員ID番号とお名前(ローマ字)を書き込み、ご利用下さい。

◆緊急時でも弊社にご連絡いただけるよう、外出の際には必ず会員カードを携帯してください。

カード裏面には病気・事故など不測の事態により会員様ご自身でOSSMAヘルプラインに電話ができない場合に備え、第三者(特に医療・警察関係者)が弊社へ連絡できるよう注意書きを添えております。渡航前にサービスガイドP. 33の該当するフリーダイヤルナンバーを会員カードの裏面にお書き入れ下さい。

OSSMAのサービス内容

1. パーソナル支援	航空機遅延時の対応、航空機内でものを置き忘れしたなどなどの相談からパスポート、航空券、クレジットカード等の盗難・紛失の際に、関係機関への連絡や再発行のための支援などをします。 ご要請により、現地危険情報のご提供もおこないます。
2. 海外医療アシスタンス	病気や怪我の際、以下のサービスをご利用いただけます。 ①医療機関の手配②搬送手配③海外医療機関で受診した場合など電話通訳④通訳手配⑤帰国搬送手配⑥医師・看護師派遣⑦帰国後の日本の病院手配⑧海外旅行保険請求支援
3. 安否確認	安全を確認するために、会員のメールアドレスに定期安否確認メールを送ります。返信がない場合、海外緊急連絡先に電話をして安否を確認します。
4. 健康・メンタルケア	医師が、電話による健康・メンタルケアに関するご相談にも応じます。
5. ご家族への渡航サポート	会員の皆様が海外で入院された場合など、ご家族、大学関係者などが現地に救援に向かう場合に、航空機や宿泊手配をします。
6. 弁護士紹介	刑事・民事を問わず法律アドバイスが必要な場合、弁護士のご紹介も可能です。
7. その他OSSMAに関するご質問	ID・PWがわからない。OSSMA会員カード紛失した。入力に関するご質問などにお答えします。

■OSSMAサービス料金について

OSSMA料金につきましては、下記の表にてご確認いただき、クレジットカード決済もしくはコンビニエンスストア決済にてお支払い下さい。

(事務手数料 別途182円)

渡航期間	料金(税込)
1ヶ月	3,300円
2ヶ月	5,500円
3ヶ月	11,000円
4ヶ月	14,850円
5ヶ月	18,700円
6ヶ月	22,000円
7ヶ月～9ヶ月	26,400円
10ヶ月～12ヶ月	29,700円

注) 派遣期間が派遣月数プラス10日以上の場合は、月数が切り上げとなります。

例) 渡航期間: 1月1日～2月9日⇒1ヶ月料金
 渡航期間: 1月1日～2月10日⇒2ヶ月料金

通知時期	渡航期間	
	6ヶ月未満	6ヶ月以上
渡航月の前月25日まで	1,000円	1,000円
渡航日の前日まで	1,000円	4,000円

(消費税別)

②日程変更のご連絡が渡航日以降の場合で、減少した月数の金額とお振込みいただいた金額の差が10,000円(消費税別)以上になる場合は、下表の手数料を差し引いた金額を返金します(表参照)。返金に係る振込手数料は、会員負担となります。また、渡航予定日以降に渡航取消しのご連絡をいただいた場合、ご連絡をいただいた日までは渡航していたものとしてご返金の有無を算出いたします。

通知時期	渡航期間	
	6ヶ月未満	6ヶ月以上
渡航日以降	1,000円	4,000円

(消費税別)

■滞在期間が延長となった場合

1ヶ月9日までの延長で**3,300円(税込)**、
 2ヶ月9日までの延長で**5,500円(税込)**を追加でお支払いいただきます。

期間延長が確定しましたら速やかに大学およびOSSMA事務局までご連絡をお願いいたします。

お問い合わせ先

日本エマージェンシーアシスタンス株式会社 OSSMA事務局

〒112-0002

東京都文京区小石川1-21-14

TEL: 03-3811-8310 FAX: 03-3811-8183

Email: students@emergency.co.jp

営業時間: 月～金(土日祝除く) 日本時間 10:00～17:00

